



global
equality
caucus



Parliamentarians for Global Action
Parlamentarios para la Acción Global
Action Mondiale des Parlementaires
برلمانيون من أجل التحرك العالمي



国会議員ラウンドテーブル： アジア太平洋地域における多様と インクルージョンの推進

2022年12月13日

国会議員ラウンドテーブル： アジア太平洋地域における多様性 & インクルージョンの推進

2022 年 12 月 13 日

2022 年 12 月 13 日、アジア人口・開発協会（APDA）、グローバル・イクオリティ・コーカス（GEC）、地球規模問題に取り組む国際議員連盟（PGA）共催、国連人口基金（UNFPA）アジア太平洋地域事務所（APRO）並びに国連開発計画（UNDP）バンコク地域事務所の後援で、国会議員オンラインラウンドテーブルが開催された。これは、アジア太平洋地域の多様な性的指向、性自認、性表現、身体的特徴（SOGIESC）を持つ人々、すなわちレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クィア、インターセックス（男性・女性の典型的な定義に当てはまらない生体組織を持つ人々）、ノンバイナリー（男性・女性という枠組みをあてはめない人々）、ノンヘテロノーマティブ（非異性愛規範の人々）、総称してLGBTQI+の人々が直面する問題を検討することを目的として開催され、国会議員、有識者、国際機関の代表者など、多彩な顔ぶれが参加した。進行は Tele'a Andrews 氏（UNDP Global Inclusive Processes and Institutions）が務めた。

開会挨拶

池上清子 APDA 常務理事・事務局長

参加者、国内委員会オフィサー、国連、市民社会組織（CSO）パートナーの皆様を歓迎し、GEC 並びに PGA の協力、UNFPA APRO 及び UNDP バンコク地域事務所の支援に感謝の意を表したい。このラウンドテーブルは、参加者が多様性とインクルージョンについて学び、議論し、経験や考えを共有する安全な場を提供することを目的としている。LGBTQI の若者は、ジェンダーに基づく暴力を受けやすい状況にある。また、差別的な法律や、多様な性的指向や性自認（SOGIE）を持つ人々に偏見をもたらす社会文化的規範が原因で、LGBTQI の人々が社会的保護の仕組みや保健医療サービス、教育や職業の機会から排除されることも珍しくない。また、このような排除の結果、暴力や収監のリスク、様々な健康や社会問題の影響を受けている。

国会議員は、社会的弱者や疎外された人々を含む、あらゆる人々の権利を促進・保護し、誰一人として取り残されないようにする人間中心の政策や法律を採択する役割がある。国によってアプローチの仕方は異なるが、今回のラウンドテーブルが国境を越えた協力関係を強化するものとなることを期待している。

Björn Andersson UNFPA APRO 地域事務所長（ビデオメッセージ）挨拶

今回のラウンドテーブルでは、LGBTQI コミュニティに焦点を当て、代表者や国会議員らが、LGBTQI の人々が直面する様々な問題や課題について議論するとともに、疎外されがちな LGBTQI コミュニティの状況改善のために活動している国会議員の話聞くことになっている。そのような場で挨拶できることを嬉しく思う。

人類は、ひとえに多様性によって繁栄しており、LGBTQI の人々は、この人間としてのユニークさに大いに貢献している。多様性を無視し、拒絶することは、人間の豊かさの多くを失うことに他ならない。社会のシステムや構造に参加する権利は誰全ての人々のものである。

Chantale Wong 大使・アジア開発銀行米国理事

アジア太平洋地域における多様性とインクルージョンという重要なテーマで話をしていくことができ大変光栄に思う。私は、ジョー・バイデン米大統領からアジア開発銀行（ADB）米国理事の指名を受け、米国史上初のレズビアンを公言した有色人種の大使として米国上院で承認された。

ADB は、これまでアジア太平洋地域における第一級の多国間銀行として何百万人もの人々を極度の貧困から救ってきた。そして、開発途上加盟国に対し、社会・経済発展の促進を目指した融資、技術支援、助成、出資を行い、豊かでインクルーシブで、強靱かつ持続可能なアジア太平洋地域の実現を目指している。ADB は、ジェンダー平等（GE）とソーシャルインクルージョン（社会的包摂：SI）の支援を目的として、「GESI」というプロジェクトを通じその取り組みを拡大してきた。

国会議員諸氏には、LGBTQI+のインクルージョンをさらに支援するための ADB への協力方法について自国政府と話し合ってもらいたい。ADB はこの種のプログラムに 200～250 億米ドルを支出している。今は、アジア太平洋地域における LGBTQI+の非犯罪化と社会的疎外の問題に取り組む好機ととらえている。ADB はセーフガード基準の更新を進めている。米国は、豊かでインクルーシブで、強靱かつ持続可能なアジア・太平洋地域の実現を目指した ADB による包括的な戦略および 2030 年目標の達成に向けて、最新のセーフガードに盛り込むべく独立した GESI（ジェンダー平等・社会的包摂）基準を提案した。

ADB は、加盟国への政治干渉が禁じられており、ADB の判断を左右するのは経済的配慮のみでなければならない。また、ADB 加盟国には、LGBTQ コミュニティに対する差別的な法律が今でも残っている国が多いため、データを基に LGBTQ+インクルージョンに関する議論を進め、それが全ての人にとって経済成長をいかに支えることになるかを示すことが重要である。

最後に、インドで渋滞に巻き込まれた際に、トランスジェンダーの物乞いが車に近づいてきたときの個人的なエピソードを紹介したい。LGBTQI コミュニティには、物乞いやセックスワーク以外の機会がほとんどない場合がある。この出来事をきっかけに、あのムンバイの物乞いのような人々が充実した有意義な生活を送ることができるようにするためにも、LGBTQI+インクルージョンを ADB プロジェクトやセーフガードの対象とすることを重視するようになった。

GEC 及び PGA 概要

Aron le Fèvre GEC 副事務局長

GEC は、LGBTQI+の人々に対する差別に特化して取り組む国会議員の国際的ネットワークである。会員資格は、SOGIESC に関係なく国会議員であること、LGBTQI コミュニティの権利向上に意欲的な国会議員であれば誰でも参加可能である。

GEC は、LGBT+に関する英国首相の特使である Nick Herbert 上院議員と、ベネズエラのトランスジェンダー議員である Tamara Adrián 議員をトップとする執行委員会によって運営されている。主に LGBT+の平等の実現に重点的に取り組む議員 500 人が参加しており、NGO、企業、政府などと協力し、差別撤廃や法的平等の施策の推進に取り組んでいる。国会議員は、法律を制定し、予算について表決し、指導者に影響を与える立場にあることから、非常に重要な存在である。GEC はニューヨークの国連で発足、2019 年 9 月にはアジア太平洋支部を立ち上げた。その成長は新型コロナウイルスの影響を受けたものの、アジア太平洋地域、アフリカ、中南米での拡大を目指している。

Monica Adame PGA ジェンダー・平等・インクルージョン・プログラム担当ディレクター

PGA は、人権問題（人権と法の支配、ジェンダー平等、インクルージョン、平和、気候正義を含む正義、差別撤廃など）に関して国会議員を動員する活動を行なっている国会議員の国際ネットワークである。レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、インターセックス（LGBTI）の人々に対する差別に取り組むには、国会議員の役割が極めて重要である。PGA は世界中の国会議員と活動を行っているが、チリ、エルサルバドル、モザンビークなど数カ国で国会議員との協力により、同意の上での同性間の性的行為を非犯罪化することなど、LGBTI+の人々の人権を促進することに成功した。民主主義の後退や、人権の侵害は、LGBTQ+の人々の人権に大きな影響を与えている。PGA は国連機関やパートナー機関と連携しているが、アジア太平洋地域の国会議員とも連携していきたい。

PGA と UNDP は、2017 年に『国会議員ハンドブック』を発行した。このハンドブックでは、政府や政党内の行動をきちんと見ていく際に必要な行動、また同僚議員やコミュニティとの情報共有、さらには、LGBTI+の人々を含むあらゆる人の権利を向上させ、誰も取り残さないための実例が紹介されており、国会議員の必須ツールとなっている。

<https://www.undp.org/publications/advancing-human-rights-and-inclusion-lgbti-people-handbook-parliamentarians-0>

UNDP & PGA : 『Advancing the Human Rights and Inclusion of LGBTI People: A Handbook for Parliamentarians』 (LGBTIの人々の人権とインクルージョンの推進：国会議員ハンドブック)

Tele'a Andrews UNDP Global Inclusive Processes and Institutions

自分は、ニュージーランド政府で11年間、上級閣僚・政策顧問を務めた後にUNDPに参加した。2017年に出版された『国会議員ハンドブック』は、世界中のLGBTI+の人々が直面している課題の解決に向けて支援を求める国会議員などが増えていることを受けて作成されたものである。

多くの国で進展が見られる。アンゴラ、ボツワナ、ブータン、シンガポールなどでは、同意の上での同性間の性的行為の非犯罪化が進んでいる。セルビア、アルバニアのように、インクルーシブな差別禁止法の制定に動く国も増えてきている。カナダ、フランス、ニュージーランドなどでは、コンバージョン・セラピー（転向療法）という有害な行為を禁止した国や、禁止を検討している国、LGBTI コミュニティ内の多様な家族の形や関係の認識に向けて踏み出した国も多い。

しかし、LGBTI をより包摂するための努力を継続する必要がある。国連加盟国の内、同意の上での同性間の性的行為が今でも違法とされている国が70カ国以上ある。また、性的少数者を蔑視する内容の法律や、LGBTI コミュニティの言論・集会の自由を制限する法律を積極的に推進している国もある。アジア太平洋地域も例外ではない。

LGBTI コミュニティは、医療や住宅といった生死にかかわる不可欠なサービスを利用する際にスティグマ（差別・偏見）に直面したり、仕事や教育を通じて有意義な経済活動に参加する際に障壁に阻まれることがある。特に政治家によるヘイトスピーチが増加していることは懸念すべきことであり、グローバルに協調して取り組む必要がある。

ハンドブックは2022年に改訂され、4部構成となった。

<https://www.undp.org/publications/advancing-human-rights-and-inclusion-lgbti-people-handbook-parliamentarians-0>

第1部では、国際レベル、国内レベルでのLGBTIの人々に対する国会議員の理解の基盤づくりを中心に、行動の呼びかけを強化するための重要な用語について説明している。第2部では、国際的・地域的ガバナンス機構や人権促進に関わる人々がLGBTIの権利とインクルージョンの促進に貢献できる枠組みについて述べている。第3部では、LGBTIコミュニティのインクルージョン、平等、尊重を呼びかける教育を推進し、政治的キャンペーンを主導・支援するための、法的・政策的枠組みを具体化する法律の立案に関するアドバイスや成功事例を紹介している。第4部では、LGBTIコミュニティと効果的かつインクルーシブに関わるためのガイダンスなど、より実用的なツールについて論じている。

『国会議員ハンドブック』で最も重要な点は、このハンドブックは対象を国会議員に特化しているということである。UNDP と PGA はパートナーとともに、国会議員の取り組みを支援していきたい。しかし、世界的にこうしたニーズがあり、これに応えるためには、各国がこうした取り組みに効果的なリソースを提供することが急務である。自分はニュージーランドの婚姻平等法の成立に立ち会ったが、これは国会議員がインクルージョンに果たせる重要な役割の一例である。

GEC：HIV 対策における不平等への取り組みと LGBT+のインクルージョン

Aron le Fèvre GEC 副事務局長

GEC は、HIV に焦点を当てた 2 つの活動を展開している。1 つは、HIV 医療における LGBT+に対する不平等を解消するための活動、もう 1 つは、十分なサービスが行き届かないコミュニティに確実に届くような戦略を実行する活動である。<https://equalitycaucus.org/>に GEC が発表しているレポートが掲載されている。

レポートとしては、『Decriminalising HIV: Strategies and best practice for legislators』（HIV の非犯罪化：国会議員のための戦略と優良事例）、『The HIV Prevention Handbook: Best practices for legislators』（予防ハンドブック：国会議員のための優良事例）などがあり、それぞれ国会議員に対し、LGBT+の人々が HIV 医療を公平に受けることができ、法律によって保護されるための政策提言が行われている。

GEC は、国会議員、市民社会、学識経験者、その他の関係者を巻き込み、協議やオンラインでのラウンドテーブルを開催している。予防ハンドブックは、ヨーロッパと北米に焦点を当てている。HIV の非犯罪化レポートは、どの国にも当てはまるグローバルなもので、フィリピンの事例が紹介されている。ここで、非犯罪化に関するレポートを取り上げたのは、国会議員は、非犯罪化を促進し、公衆衛生と個人の権利を優先させる枠組みを確立する上で、非常に重要な役割を果たすからである。

ある報告では、フィリピンを含む HIV の刑法改正に関する専門家の洞察と優良事例を集め、国会議員が考慮すべき重要なポイントや包括的なテーマを特定している。これには、市民団体・専門家・地域住民との協力の重要性、公衆衛生の解決策、科学的データ、経済的インパクトを中心に改革の利点を効果的に伝えること、強力な政治同盟や超党派の関係構築、必要に応じた段階的な戦略展開、患者へのアプローチなどが含まれている。

非犯罪化は、予防と治療を通じて HIV の蔓延に取り組み、スティグマと差別に対処し、HIV とともに生きる人々の人権と尊厳を中心とした幅広い啓発戦略の一環である。

ケーススタディ：アジア太平洋地域の国会議員による健康とウェルビーイングに関する啓発活動

Louise Wall 元国会議員・ニュージーランド・ジェンダーイコリティ太平洋大使

自分は GEC の創設メンバーであり、ニュージーランド（マオリ語でアオテアロア）の先住民族女性であり、Takatāpui（タカタプイ）（マオリ語で「多様な性別や性的指向を持つマオリ」の意）である。生まれ持った性別と性自認が一致しているシスジェンダー女性であり、生まれ持った性別と性自認が一致していないトランスジェンダー女性のインクルージョンの提唱者である。

自分が議員として提案した法案が、どのようにしてニュージーランドで採用されたのかの経緯を紹介したい。ニュージーランドでは 2004 年、シビルユニオン（婚姻と同等の法的権利を同性カップルにも認める制度）が認められたが、婚姻の平等を受け入れる準備はできていなかった。しかし、労働党幹部会のレインボー・ポートフォリオの議長に就任した際、婚姻平等法案を提案した。この法案は、他の議員法案と同様、どの議員法案を審議するかをくじで決めるため保留され、2 ヶ月を経た後、1 回目の審議である第一読会で可決された。私はまた、ニュージーランド列国議会同盟の 2 名とともに、同性愛者に対する反感が強いウガンダを訪問した。

国会議員時代、自分の役割は全ての有権者に奉仕することと考えていた。自分は、植民地化された先住民族の出身であることから、歴史的な人種差別がどのようなものがあるかを理解している。自分はシスジェンダー女性であるがゆえに性差別がわかる。また、レインボー・コミュニティーの一員であるがゆえに、ホモフォビア（同性愛嫌悪）やトランスフォビア（トランスジェンダー嫌悪）のことも理解できる。

法改正も含め、人権や社会正義を擁護することは、国会議員にとって重要な役割である。非犯罪化と LGBTQ+ の権利の向上は、世界の脱植民地化と深く関わっている。植民地化されるまで、ニュージーランドには常に LGBTQ+ の居場所があった。

Geraldine Roman 議員（フィリピン）

自分は、女性・ジェンダー平等委員会の委員長であり、LGBT の権利に関する障壁を打ち破ったトランスジェンダー女性初の国会議員である。SOGIESC に基づく差別の撤廃を求めるロビー活動は、個人的偏見や政治的傾向などの要因があるため難しい仕事である。1 期目には、同僚議員を説得し、差別禁止法案が下院において全会一致で可決されたが、保守色が強い上院でとん挫した。

しかし、この差別撤廃法案（通称 SOGIE 平等法案）について希望を持っている。議員にはミレニアル世代やジェネレーション Z が多く、偏見が少ないため、同法案の審議は進められている。また、政治に携わる女性が増え、共感を得られている。法案は上院の委員会レベルでは承認されており、2023 年も審議が行われることになっている。

しかし、保守派を中心としたノイズ・マイノリティ（声の大きい少数派）も存在する。別の差別撤廃法案が議会で提出されたが、皮肉にもこの法案には SOGIE に基づく差別は含まれていない。キリスト教界のある一派は、基本的人権を武器にしようと考えている。「婚姻」や「ユニオン」という言い方さえも論議を呼ぶと考えている。一歩ずつ戦略を立て、優先順位をつけながら、最終的に婚姻まで範囲を広げるのが得策だと考えている。

討議

Tele'a Andrews 氏

差別撤廃や差別禁止法について消極的な意見がある場合、どのようなアドバイスがあるか、パネリストにお聞きしたい。

Louise Wall 元国会議員

クック諸島では野党議員である Tina Brown 氏が同性愛法の改正を大きく前進させた。抵抗がある時には、コミュニティとして関わるのが重要であり、何が問題なのか、LGBTQ コミュニティは犯罪者ではなく（断じて犯罪者ではない）、単に生存権のために闘っているのだということを知ってもらえれば、協力関係の基盤ができるだろう。

Damry Ouk 議員（カンボジア）

発表に感謝したい。カンボジアでは、法の下で全ての人々が平等であり、差別は大きな問題となっていない。

Aroma Dutta 議員（バングラデシュ）

LGBT の問題はバングラデシュの文化や宗教と相容れるものではない。一部のコミュニティは、同性愛行為を違法とするバングラデシュの刑法第 377 条の廃止を要求している。このことについての考えを伺いたい。

一方で、バングラデシュはトランスジェンダーを一つの性別として認めている。一般的に、文化的障壁のために、多様な SOGIESC コミュニティへの適切なサービス提供のコミットメントよりも、トランスジェンダーの認知に限定されていることから、LGBTI の人々へのより幅広いサービスのためにはさらなる努力が必要である。バングラデシュは調和がとれている反面、マイノリティの問題があり、先住民族は疎外され、彼らは教育の主流から取り残されている。

Louise Wall 元議員

Aroma Dutta 議員の発言は、まさに世界で脱植民地化に焦点が当てられていることを浮き彫りにするものである。なぜならば、377 条は、1860 年代のイギリス領インド政府から引き継いだ法律だからである。

Alex Greenwich ニューサウスウェールズ州議会議員（シドニー市選出）

オーストラリアは、南半球の国としては初めて「ワールド・プライド 2023」を主催することとなった。直接、またはオンラインで参加願いたい。（<https://sydneyworldpride.com/events/human-rights-conference/>）

「ワールド・プライド 2023」は、権利について議論する場となる。オーストラリアには、まだやるべきことがある。コンバージョン・セラピー（転向療法）の禁止やインターセックスの権利向上（同意を得ない幼児外科手術を含む）など、トランスジェンダーのための法改正が次々に行われている。先住民族の正義と、それが LGBTI のコミュニティの正義とのオーバーラップにも焦点が当てられる。

Tele'a Andrews 氏

参加者の皆様に感謝を表したい。各団体の連絡先やツールに興味がある人は APDA に連絡してほしい。このラウンドテーブルは、アジア太平洋地域の LGBTIQ+ の人々が直面している課題について、国会議員の知識と理解を深めるために役立つ多くの情報を提供した。GEC や PGA といった主要機関の啓発活動や、国会議員向けハンドブックといった情報も提供された。2 人の国会議員から、スティグマと差別が、多様な SOGIESC の社会とコミュニティにおける有益な関与と包摂を妨げているかという実例を聞くことができた。SOGIESC に関わらず、全ての人々をよりよく受け入れるための努力は、改善し続ける必要がある。

2023 年初頭にオーストラリアのシドニーで開催される「ワールド・プライド」は、LGBTIQ+ の人々が直面する問題を提起し、よりよく検討し、それらに対処するための戦略を練るために必要な焦点を提供する。国会議員の皆様に、ぜひご参加いただきたい。



THE ROUND TABLE WAS ORGANIZED BY



APDA



global
equality
caucus



Parliamentarians for Global Action
Parlamentarios para la Acción Global
Action Mondiale des Parlementaires
برلمانيون من أجل التحرك العالمي

WITH SUPPORT FROM

